

Closing The Gap

**Everyone's classroom:
An environment designed
to invite and facilitate
active participation**

By Lana Sheets and
Mary Wirkus

An inclusion is becoming more prevalent, the learning environment must accommodate the needs of a more diverse group of students.

Part of this adaptation involves the arrangement of the classroom. Many items and materials will not only have a physical presence in the classroom, but also a virtual one. This is of great importance as a physical shadow to the student can be created or who have unique learning styles or who have average or "normal" abilities.

When a classroom is designed which allows all active students to be active participants. Unfortunately, not all students are active learners and some students are not fully included in the entire educational experience. It is important to remember that each child is a specific child but not done with certain things. These modifications may make the teacher's job a bit more difficult. The potential inclusion creates a different atmosphere for the classroom. Involves the communication and interaction in addition to a decrease in the amount of time spent on individual activities – activities necessary to make up a child's education.

Everyone's classroom is an environment for everyone, a variety of low tech items such as paper, pencil, crayons, markers, drawing materials, and adapted science can be incorporated into the home environment. These adaptations were made, so that the children could learn and explore at their own level.

A child who is an active participant in the classroom is limited and cannot move around freely. This is why it is important to invite and maintain interactions as appropriate. This ability to interact with others is important for the development of each student. This is why it is important that students have the opportunity to become active rather than passive learners.

This project was designed to demonstrate the importance of an appropriate environment for all students. This is why it is important to design and implement a classroom that provides for everyone's needs. This is known as Everyone's Classroom.

This age level was chosen based on the fact that this is the age group that has been receiving early intervention for the first few years of life. This is why it is important to include the "Big A" (Big Apple) and "Big C" (Big Classroom). This is also why it is important to include the "Big E" (Big Everyone).

Check out the library: Copyright © Closing The Gap, Inc. All rights reserved.
www.closingthegap.com/library

Address:
120 Main St
P.O. Box 89
Henderson, MN 56044
Phone:
320-249-3294
Fax:
320-249-3810
Web site:
www.closingthegap.com
E-mail:
info@closingthegap.com

全体の内容

前号では5) 特別行事までをご紹介致しました。
今号では6) 相互交流から最後までご紹介致します。

- 1) 前文
- 2) 物理的な環境
- 3) 相互交流のための環境への配慮
- 4) 活動：お話の時間、図工、トイレ、休み時間、おやつの時間、選択の時間(粗大・巧緻運動の活動)
- 5) 特別行事
- 6) 相互交流
- 7) アシスティビテクノロジーの利点
- 8) すべての生徒が積極的に参加できる可能性

相互交流

年齢の低い子ども達と接する時には重要なことがいくつある。1つめは、我々が子ども達に発言の手本を示すこと（モデリング）、子ども達へ質問を提示する時は制約を持たせないこと、質問した後は子どもからの返答を期待していることを態度で示す、ということである。当然ながら最初は何らかの言葉かけが必要であるが、このような接し方を行うことで子どもは会話を続けることに責任感を持つようになる。

次に、我々大人は子ども達が取り組む活動が明確な構造になっているか、判断することが重要である。初めに起こること、2番目、3番目、最後に起こることを視覚的に分かるようにシンボルを使用することは有効と考える。また我々は生徒が周囲と関わっている時に生徒が意見を発言したり、質問したりできるよう、適切な語彙が使える環境になっているか考慮しておかなければならない。「わあ！」や「ちょっと、あれ見て！」等という言葉を使えるようにしてお

前号に引き続きまして、

米国のカンファレンスClosing The Gapで1996年に発表され
Closing The Gap, vol16 (number1, 1-9) に掲載されている
論文を翻訳しあげます。

著者Lana Sheets (作業療法士)、Mary Wirkus (言語聴覚士) が実施したプロジェクト「Everyone's Classroom」についての結果報告です。このプロジェクトは米国ウィスコンシン州の教育省によりEarly Childhood Everyone's Classroom Discretionary Grant (助成) を通じて資金援助を受け、ウィスコンシン州アシスティビテクノロジーインシアチブという団体によって運営されました。統合教育が進む中、すべての生徒が積極的な参加ができる環境をどのように創るか、物理的な環境、相互交流、活動の3つの側面から報告と提言を行っています。

くと、子どもが周囲との関わり合いを持つことに積極的な気持ちを持つきっかけとなる。

最後に、生徒へサポートや手掛けりを与える、我々の「量」について考えておくべきである。同時に可能な限り早い時期にサポートの量を減らしていくことも心に留めておかなければならない。我々は生徒が仲間と交流する際に干渉したり、何かに置き換えたり、時には回避させたりさえすることもあるが、それとは対照的に「生徒へのサポートをいつ行うか」、絶えず意識しておく必要がある。例えば、数台のトーキングピクチャー（1つの言葉の録音再生機器）に1つの歌の小節を録音しておくと、すべての子ども達が共に参加できる活動になる。これは発語のない子どもに対して歌を歌う“声”を提供するだけでなく、子どもの周囲のクラスメートに対しても適した言葉選びや関わり合いのモデルを示すことになる。

内気または自信のない子ども達は大人数のグループではVOCAを使って参加する傾向にある。何度か成功を重ねると自信を持ち、自分の言葉を使い始める傾向がある。

生徒が周囲と関わるために手段は教室内で行うすべての活動において配置する必要がある。例えば、ロールプレイではビッグマックに言葉を録音し、教室の真中に置いておく。子ども達がトウモロコシに見立てたビーズクッションを使い、おりの中にいる豚に“餌をやる”。ビッグマックには「トウモロコシもっとちょうだい！」と録音しておき、豚の役の子どもがセリフを言う。このような相互的な関わり合いを促進させる活動は他にも多くある。ここで紹介した活動に加え、様々な方法で活動を提供することによって、子ども達は積極的に参加できるようになる。

積極的な参加を引き出し、促進していくために どのように環境を設計するか：その5

Lana Sheets, Mary Wirkus



アシスティブテクノロジーの利点

拡大コミュニケーション機器またはコミュニケーションを拡大させる方法を教室に導入することは、発語がない子ども達の伝達手段となるだけではなく、すべての生徒に対してコミュニケーションや参加を促進するものとなる。利用する者にとって優しい環境、参加しやすい活動、関わりたい仲間を創ることは、大人との関わり合いと同様に大変重要である。すべての子ども達に対して積極的な参加を促す物であれば材料や道具の購入も非常に有効である。

利用者にとって優しい環境を創り出した結果として以下を挙げる：

- 自発性の増加
- 主体性の増加
- 周囲と同等に扱われ、周囲に必要とされた上の参加
- 責任感
- 学習や生活経験の広がり
- 相互交流・コミュニケーションの新たな機会の増加

Everyone's classroomを通して見えたもの

[すべての生徒が積極的に参加できる可能性]

Everyone's classroomでは、受動的ではなく積極的に参加・学べるよう生徒へ様々な手段を提供した。このEveryone's classroomは生徒の主体性とすべての生徒の積極的な参加を促進する「環境の設計」である。

参考文献：

Beukelman, D., & Mirenda, P. (1992). Augmentative and Alternative Communication: Management of Severe Communication Disorders in Children and Adults. Baltimore, MD: Paul H. Brooks Publishing Co., Ltd.

Flippo, K., Inge, K., & Barcus, J. (1995). Assistive Technology: A Resource for School, Work, and Community. Paul H. Brooks Publishing Co., Inc.

※本論文の翻訳掲載については、Closing The Gapより許諾を得ております。

※ここで使用しています写真はイメージです。本文の事例写真ではありません。

Everyone's classroom みんなの教室、「積極的な参加を引き出し、促進していくためにどのように環境を設計するか」は今号にて最終回となります。多くの読者の方よりご好評をいただきました。誠に有難うございました。